

3月3日は「耳の日」です。

「耳の日」は、難聴と言語障害をもつ人びとの悩みを少しでも解決したいという、社会福祉への願いから始められたもので、日本耳鼻咽喉科学会の提案により、昭和31年に制定されました。

耳のことで何かお困りでしたらいつでもお気軽に耳鼻咽喉科にご相談ください。

【難聴について】

耳鼻咽喉科疾患の一つ、難聴には様々な種類があります。周りの音が明らかに聞きとりにくくなると、誰しも難聴と自覚しますが、耳が詰まった感じや耳鳴りなどの症状も、実は音が聞こえなくなっている可能性があります。その為、難聴である事に気付かず、治療のタイミングを逃すことがあります。

【伝音難聴と感音難聴】

難聴の原因には、大きく分けて伝音難聴と感音難聴の2種類があります。

伝音難聴とは、外耳道（耳の穴）から中耳（鼓膜の裏）の障害が原因で生じる難聴です。頻度が高いものとして、急性中耳炎、滲出性中耳炎、真珠腫性中耳炎などがあります。

感音難聴とは、内耳から中枢聴覚路（脳を含む神経系）の障害が原因で生じる難聴です。頻度が多いものとして、突発性難聴、加齢性難聴、メニエール病などがあります。

【難聴の治療法】

これらの治療法ですが、伝音難聴の中で頻度が高い中耳炎などの炎症が原因の病気では、炎症のコントロールが必要になります。抗菌薬の投与を行い、中耳に膿や浸出液が貯まっている場合には、鼓膜切開や鼓膜換気チューブ留置などの処置を行います。適切な治療を行えば聴力は元通りに改善しますが、適切

な治療を行わずに放っておくと、骨を溶かし脳まで病変が浸潤する真珠腫性中耳炎という病気になるおそれがあります。真珠腫性中耳炎を発症した場合の治療は手術しかありません。当院のように手術可能な病院での受診が必要となります。

【突発性難聴について】

次に感音難聴の中で頻度の高い病気に、突発性難聴という急に音が聞こえなくなる難聴があります。これは様々な要因から発症し、今のところはっきりとした発症メカニズムは分かっていません。治療法は、主にステロイド薬の投与になります。発症してから1週間以内に治療を開始すれば、効果がありますが、遅れると治療効果は低下します。難聴かな？と思ったらすぐに耳鼻咽喉科を受診して下さい。

【お年寄りの難聴】

お年寄りには、加齢による難聴が多くみられます。聴力をカバーするために人工内耳や補聴器などの機器があり、当科では、月に2回ですが、補聴器の調節なども行っております。

他にも難聴を起こす病気は沢山あります。難聴かと思ったらすぐに耳鼻咽喉科を受診して下さい。難聴の原因を究明し、迅速かつ適切な治療を行えば、聴力を元に戻すことができる可能性が高くなります。

【意外と知らない耳垢のこと】

「急に耳が聞こえなくなった！」と受診される方がおられますが、耳の中を見ると、耳垢がびっしり詰まり完全に閉塞している方が時折いらっしゃいます。このような場合、耳垢を取り除くと、すぐに元通りに聞こえ、すっきりとした顔で帰宅されます。

耳垢には、粉状のサラサラしたタイプと、湿ったベタベタしたタイプの2種類があります。日本人は、サラサラしたタイプが90%以上を占めています。耳

の穴が完全に詰まる方は、どちらかといえば湿ったタイプの方が多い印象を受けます。

耳垢がたまって聞こえなくなる可能性があるからといって、頻回に耳掃除をすると、耳の穴が傷つき耳漏や痛みの原因にもなります。さらに癌を引き起こす可能性もあります。その為、どちらの耳垢のタイプの方でも、耳掃除は2週間に1度程度でいいと思います。

もし、自分で耳掃除をするのが苦手という方であれば、耳鼻咽喉科に受診していただければ綺麗に耳掃除を行います。

耳鼻咽喉科
原田 祥太郎